

パーマネント
コース紹介

加賀の隠れた名コース

石川県 坪野・平栗コース

大高竜亮

初心者から経験者まで満足できる名コース。だが残念ながら基点となるキャンプ場が閉鎖されていた。

坪野・平栗コース
石川県 No.13 8 km 12 ポスト

延伸されたコース

5月1日、前回紹介した「歴史国道・倶利伽羅」コースに続いて挑戦したのが同じ石川県の「坪野・平栗」コースです。

1995年9月22日、当時の「坪野」コ

ースを歩いてから12年。再訪することになったのは、昨年のコース変更です。

昨今、普及の観点から短く平易なコースに変更されるケースが目立ちますが、このコースは珍しく延伸という形でリニューアルされています。5kmから8kmへ。パーマネントコースファンも満足の本格コースに生まれ変わっています。

アクセスは困難

スタート地点の「坪野キャンプ場」までは金沢市内ながらバスの運行がありません。最寄りのバス停からは徒歩だと70分もかかる。マイカーも

しくはタクシーの利用がお勧めです。

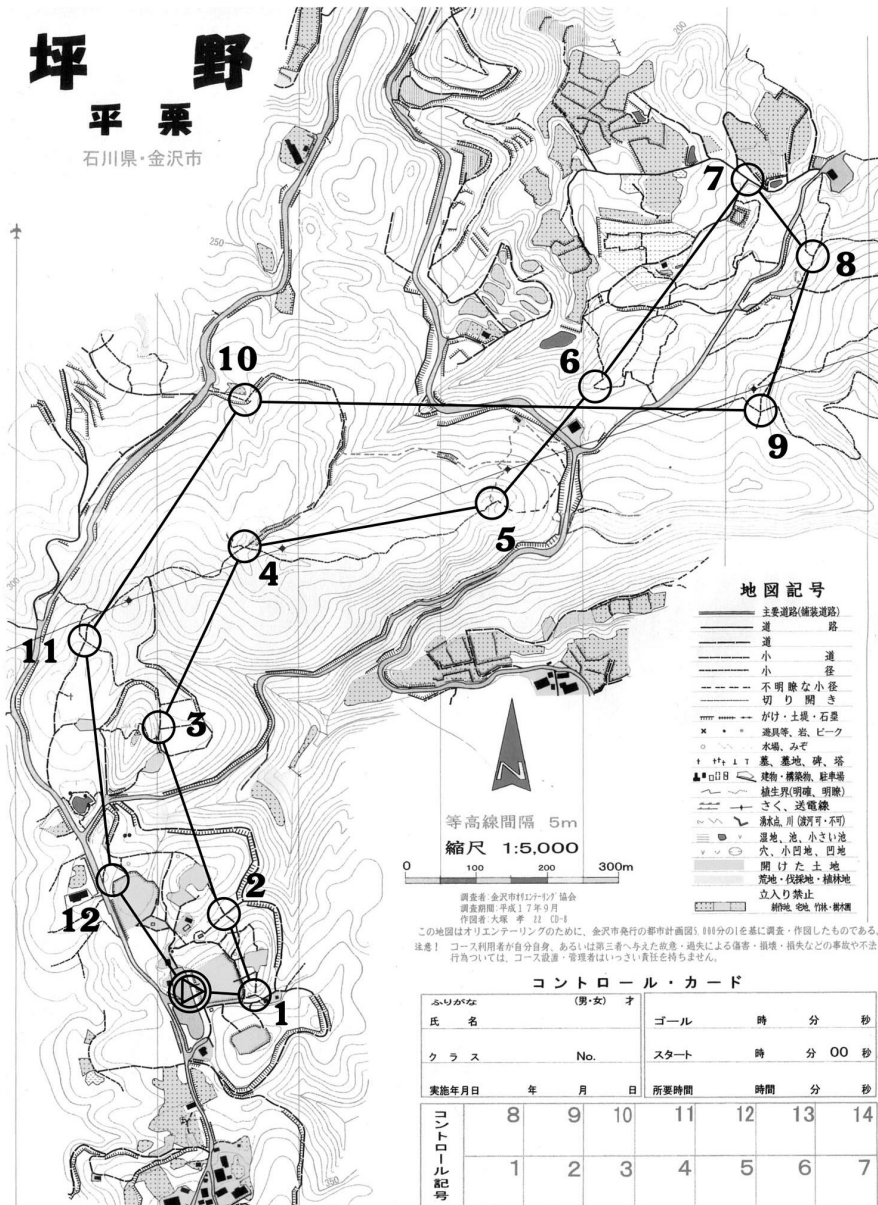
新潟から借りているレンタカーのカーナビに目的地をセットして、倶利伽羅からの道を進みます。ところが、目的地のはるか手前の街中で突然案内が終了。どうやら、坪野キャンプ場に通じる林道一帯は案内範囲から外れている様子で、ややわかりにくい林道の入口を自力で見つけ、ひと気のない林間ルートに入ります。

徒歩70分でわずか5km程でしょうか。すれ違う車もなく、右に左に蛇行しながら林道を走り、「坪野キャンプ場」にようやく到着します。ゴールデンウィーク合間の平日、しかも曇天とはいえ人の気配が全くありません。パーマネントコースの案内板が立っていることでここがスタート地点であることは間違いないのですが、キャンプ場の賑わいがまるでないことに妙な違和感を覚えます。それもそのはず、このキャンプ場、2005年度で閉鎖されています。それでもここをスタート地点としているのは、キャンプ場閉鎖後も「森林浴の森」として整備されることになっているからでしょうか。

問い合わせをせずに出かけたこともあり、現地でマップを手に入れることがかなわず、後日あらためて石川県オリエンテーリング協会事務局の孫田さんから郵送いただきました。こうした一括管理をしている協会は少数ですが、利用者の利便性向上のためには是非拡大して欲しいものです。

この日は持参したコピーマップが頼りです。案内板のマスターマップはさすがに石川県。取り替えたばかりのような新鮮さで掲示されています。コースが拡大されたのは、北東エリアの「平栗いこいの森」一帯。4月初旬から中旬にかけて見頃を迎えるカタクリの群生地があること、絶滅危惧種のギフチョウが見られるところとして知られています。このエリアに4箇所設置されたポストは、新設と移設が2つずつ。このコースのポストは従来からFRP製の標準タイプが使用されていることから、新設ポストも平板ではなく三面のものになっています。

朝に回った「倶利伽羅」コースとは違い、名所・旧跡は一切ないものの、森林浴にはまさに打ってつけ。森の中に整備された快適な歩道を堪能できる



好コースです。ただ、この日は後半雨模様でしたが…。



坪野キャンプ場駐車場の案内板

コースメンテは良好

本日2コース目、8時59分にスタートです。第1ポストは駐車場裏の広場を抜けるとすぐに到達。スタートからわずか1分のところ。以前と変わらぬ地点に立つポスト。平成4年の郵政省の助成金で立てられたもので、15年経過しています。しかし、そこはさすがFRP。古びた感じは全くありません。すぐに退色してしまう記号もしっかりと手直しされています。

第2ポストへは、丘の上にある「第2アテ広場(アテ=石川県木のヒノキアスナロの方言)」を経由するルートを選択。階段を下り切ると早くもポストです。本格コースと言いながら、ここまではパークOL並のテンポで進みます。

以前のコースの第3ポストが撤去されて移設されたことから、これまでの第4ポストが現在の第3ポストに繰り上がっています。この変更で、第2ポストからのルートが2通り選択できるようになりました。2回目ですので、前回通らなかった丘越えルートを選びます。丘の上にはやはり広場があり、ここは「第1イヌワシ広場(イヌワシ=石川県鳥ながら石川県には30~40羽のみしか生息していないと見られるこれまた絶滅危惧種)」と名づけられています。

第3ポストから第5ポストまでの林間ルートはオリエンテーリングムードが満点。特に、緩やかな上り下りのある第5ポストまで続く小径はベストルートです。

第6ポストから第9ポストは新コースで組み入れられた「平栗いこいの森」

に入ります。主要道路の三叉路から東に向かい、北に続く遊歩道をたどって山を下ります。道の折り返しに置かれた第6ポストは新設されたものでピカピカ。どしりと重厚感のあるポストが頼もしくもさえ思えます。

さらに山を下ると「ギフチョウの里」に差し掛かります。野鳥観察舎や木道が敷かれた遊歩道が整備されていて、ちょっとした散策が楽しめます。コース最北端の第7ポストは、このコースでは珍しく水田が見渡せる地点。ポストは移設組です。



平栗いこいの森案内図

舗装道路もわずかな区間で再度穏やかな林に続くルートに入ります。このコースではもっとも斜度のある上り坂を進み、分岐で第8ポストを確認。2人並んで歩けるほどの快適な山道の途中です。



快適な林道に立つ第8ポスト

第9ポストは新設組で深山気分が味わえる地点に置かれています。ここからの杉林を下る小道も快適そのものです。

第10ポスト以降は、従来のコースのトレースとなります。平栗いこいの森エリアを後にして、再び主要道路の三叉路に戻り、小道の入口を探します。第5ポストから抜け出してきた地点ではなく、三叉路のすぐ脇にある入口からの突入を試みましたが、これが失敗。雨天のなか笹藪をかき分けることになり、すっかりずぶ濡れの憂き目に。真西に続く小道をたどり、広い砂利道を緩やかに下ると第10ポストに到達しま

す。

第11ポストは以前の第9ポスト。従来は100m余り手前に第8ポストが設置されていましたが、新コースでは平栗いこいの森エリアへ移設されています。木に括りつけられたポストを分岐で発見し、従来どおりに立つ最終ポストを広場の縁で確認すると、このコースも終了です。

コースは太鼓判

2時間弱の所要時間ながら、満足度の高さは太鼓判。オリエンテーリングの醍醐味も味わえる入門コースとしてクローズアップしたい、隠れた名コースです。

2コースを回り終えてもまだお昼前。この後、北陸道で福井に向かい、「芦原北潟湖」「東尋坊」という過去帳入りのコースの調査を敢行しました。が、結果は残念なもの。「東尋坊」で朽ち果て辛うじてポストであったことが判別できる程度の残骸を1箇所確認できた程度にとどまりました。

このあと、鳥取2コース、島根2コース、再び福井で1コースを歩き、5月5日に無事新潟に帰り着きました。

(2007年5月1日 踏破)
(大高竜亮)